

介護福祉士実務者研修 情報開示に関する事項

| 区分 | 情報開示の項目 | 内容 | |
|-----------------|--------------------------------|---|---|
| 設置者に関する情報 | ①設置者の法人種別、名称並びに主たる事務所の所在地及び連絡先 | 岐阜県立益田清風高等学校 〒509-2593 岐阜県下呂市萩原町萩原326-1 電話：0576-52-1021 FAX：0576-52-1369 | |
| | ②法人の代表者の氏名 | 古田 肇 | |
| | ③介護福祉士養成施設以外の実施事業 | | |
| | ④財務諸表 | | |
| 介護福祉士養成施設に関する情報 | ①介護福祉士養成施設の名称、住所及び連絡先 | 岐阜県立益田清風高等学校 介護福祉士養成実務者研修通学課程 〒509-2593 岐阜県下呂市萩原町萩原326-1 電話：0576-52-1021 FAX：0576-52-1369 | |
| | ②介護福祉士養成施設の代表者の氏名 | 今井 一三 | |
| | ③介護福祉士養成施設の開設年月日 | 2020年10月1日 | |
| | ④学則 | (学則 PDF) | |
| | ⑤介護福祉士養成施設の研修施設、図書室等の設備の概要 | 益田清風高等学校 総合学習室、介護実習室、3E教室 当校のホームページをご覧ください | |
| 養成課程に関する情報 | ①養成課程のスケジュール | (授業進度計画表 PDF) | |
| | ②定員 | 35名 | |
| | ③入所までの流れ | 岐阜県立益田清風高等学校総合学科に在籍し、2年次以降、福祉系列を選択する者。 | |
| | ④費用 | 受講予定者の保有資格 | 受講料 (テキスト込み、税抜き) |
| | | 無資格・訪問介護員3級 | 18,000円 (テキスト代13,400円、実習費2,800円、ファイル代900円) |
| | ⑤科目ごとのシラバス (授業概要) | (授業概要 PDF) | |
| ⑥教員数、科目ごとの担当教員 | 介護過程Ⅲ | 教諭 馬場 貴一 | |
| | 医療的ケア | 看護師 伊藤 みね子 | |
| | 人間の尊厳と自立、 | 教諭 馬場 貴一 | |

| | | | |
|--------|-------------------------------------|---|----------|
| | | 社会の理解Ⅰ、Ⅱ、 介護の基本Ⅰ、Ⅱ、 発達と老化の理解Ⅰ、Ⅱ、 認知症の理解Ⅰ、Ⅱ、 コミュニケーション技術、 生活支援技術Ⅰ、Ⅱ、 介護過程Ⅰ、Ⅱ、 障害の理解Ⅰ、Ⅱ、 こころとからだのしくみ Ⅰ、Ⅱ | 教諭 横井 晴香 |
| | ⑦使用する教材 | 長寿社会開発センター 実務者研修テキスト | |
| | ①卒業者の延べ人数 | | |
| | ②卒業者の進路状況 (就職先の施設種別、卒業者のうちの就職者数) | | |
| その他の情報 | | | |

「岐阜県立益田清風高等学校 介護福祉士養成 実務者研修」学則

ア 設置目的

第1条 「岐阜県立益田清風高等学校 介護福祉士養成 実務者研修通学課程」(以下「本校」という。)は、要介護高齢者及び障がい者の自立支援に資するケアを実践する介護福祉士の養成を目指し、本校が実施する「介護福祉士養成 実務者研修」(以下「本研修」という。)を通して、受講者の介護福祉士養成実務者研修取得の支援をすることとし、それをもって地域包括ケアの推進に寄与することを設置の目的とする。

イ 名称

第2条 本校の名称は、「岐阜県立益田清風高等学校 介護福祉士養成 実務者研修通学課程」という

ウ 位置

第3条 本校は、岐阜県下呂市萩原町萩原326-1に置くものとする。

エ 修業年限

第4条 本研修の修業年限は、1年3カ月以上とする。

オ 生徒定員・学級数

第5条 1学級の定員を35名、学級数は1学級とし、総定員は35名とする。

カ 養成課程・履修方法

第6条 養成課程の種類は昼間課程とし、履修方法については、別表1のとおりとする。

キ 学年、学期、休業日

(学年)

第7条 学年は4月1日より始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年・年次を分けて原則、次の二期制とする。

前期 4月1日から 9月30日まで

後期 10月1日から 3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

- 1 国民の祝日及び振り替え休日
- 2 土・日曜日
- 3 学年末及び学年始めの休業日
- 4 夏季休業日
- 5 冬季休業日

前号に定めるもののほか、施設長が必要と認めた場合には、あらかじめ岐阜県教育委員会へ届け

出て休業日又は授業日を変更することがある。

ク 入所時期

第10条 入所時期は、養成課程の開講日とする。

ケ 入所資格

第11条 岐阜県立益田清風高等学校総合学科に在籍し、2年次以降、福祉系列を選択する者。

コ 入所者の選考

第12条 受講申込書を受理した者の中から、前条の要件を満たすと認められる者につき入所決定する。ただし、養成課程の定員に達した時点において申込受付は終了とする。

サ 入所手続

第13条 入所手続は、本校が定める受講申込書に、契約書、本人であることを証明できる書類（保険証の写等）を添付して行うものとする。

シ 退学・休学・復学

（退学）

第14条 退学しようとするときは、その理由を明示し保護者から施設長に願い出なければならない。

（休学）

第15条 生徒が病気・けがなどその他やむを得ない理由により休学しようとするときは、その理由及び期間を明示して、保護者から施設長に願い出なければならない。ただし、病気・けがによるものは医師の診断書を添えなければならない。

（休学期間）

第16条 休学の期間は1年以内とする。ただし、特別の理由により、施設長が必要と認めるときは、その期間を変更することができる。

（復学）

第17条 休学中の者が、その理由がなくなったことにより復学しようとするときは、復学願により保護者から施設長に願い出なければならない。ただし、病気・けがにより休学した者は医師の診断書を添えなければならない。

（決裁）

第18条 第14条から第17条による願い出のあったとき、施設長は所定の手続きによる審査を行い当該出願事項について許可又は不許可の決裁を行う。

ス 学習の評価及び課程修了の認定

第19条 養成施設指定規則第4の2及び「実務者研修における「他研修等の修了認定」について」（平成23年11月4日社援基発1104第1号厚生労働省・援護局社会福祉基盤課長）に基づき編成された別添1の各科目の出席時間数が養成施設指定規則に定める時間数の3分の2に満たない者及び医療的ケアの演習の所定回数を満たしていない者は、当該科目の履修の認定をしないものとする。

2 各科目の学習評価は、修了試験をもって行い、下記による成績により採点する。成績評価は70点以上を合格とする。不合格の場合は、追試を行う。追試において70点以上を合格とする。

3 面接授業の場合において、授業開始から20分以上を遅れた場合は欠席とする。また、止むを得ず欠席する場合は、欠席届を提出するものとする。欠席した場合は、第19条4に規定する補講を受講しなければならない。

4 面接授業を欠席した場合は、補講を受講することにより修了する。

5 本研修を修了した者には、介護福祉士養成実務者研修修了証を交付する。

セ 受講料等

(受講料)

第20条 受講料は、無料とする。ただし、テキスト代は、実費とする。

ソ 教職員の組織

第21条 本校に、施設長（学校長）、教務主任、専任教員、介護過程Ⅲ担当教員、医療的ケア担当教員、事務職員及びその他必要な教職員を置く。

タ 賞罰

第22条 施設長は、学校教育法第11条及び同法施行規則第13条の規定に基づき、生徒を懲戒することができる。懲戒は次のとおりとする。

- (1) 退学
- (2) 停学
- (3) 訓告

ただし、退学は次の一に該当する者に対して行うことができる。

- ア 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- イ 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ウ 正当な理由がなくて出席常でない者
- エ 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

チ その他事項

第23条 この学則に定めがない事項で必要があると認められるときは、施設長が別にそれを定める。

(附則)

この学則は令和2年4月1日から施行する。

(別表1) 科目及び履修方法

| 指定規則に定める科目及び時間数 | 本施設時間数 | 履修方法 |
|----------------------------|---------------|--------------------|
| 人間の尊厳と自立 (5) | 5 時間 | 面接授業にて履修する。 |
| 社会の理解Ⅰ (5) | 5 時間 | 同上 |
| 社会の理解Ⅱ (30) | 30 時間 | 同上 |
| 介護の基本Ⅰ (10) | 10 時間 | 同上 |
| 介護の基本Ⅱ (20) | 20 時間 | 同上 |
| コミュニケーション技術 (20) | 20 時間 | 同上 |
| 生活支援技術Ⅰ (20) | 20 時間 | 同上 |
| 生活支援技術Ⅱ (30) | 30 時間 | 同上 |
| 介護過程Ⅰ (20) | 20 時間 | 同上 |
| 介護過程Ⅱ (25) | 25 時間 | 同上 |
| 発達と老化の理解Ⅰ (10) | 10 時間 | 同上 |
| 発達と老化の理解Ⅱ (20) | 20 時間 | 同上 |
| 認知症の理解Ⅰ (10) | 10 時間 | 同上 |
| 認知症の理解Ⅱ (20) | 20 時間 | 同上 |
| 障害の理解Ⅰ (10) | 10 時間 | 同上 |
| 障害の理解Ⅱ (20) | 20 時間 | 同上 |
| こころとからだのしくみⅠ (20) | 20 時間 | 同上 |
| こころとからだのしくみⅡ (60) | 60 時間 | 同上 |
| 医療的ケア (50) 喀痰吸引及び経管栄養演習 | 50 時間 必要回数 | 同上 演習・実習にて履修する。 |
| 介護過程Ⅲ (45) | 45 時間 | 面接授業にて履修する。 |
| 合 計 | 450 時間 | |

【別紙8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|---------------|---------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立 （社会福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 5 | 時間数(単位数) 5 | 配当学年・時期 3年生4月～5月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 「 <u>人間の尊厳と自立</u> 」を理解するためには、「尊厳」の内容を具現化することが必要であり、具体化していく過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解する。そのためには、自立・自律像の多面的理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、具体的な事例を取り上げ展開する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。 尊厳を支えるノーマライゼーションについて理解する。 利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につける。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1人間の尊厳と自立（人間の多面的理解） 2人間の尊厳と自立（人間の尊厳） 3人間の尊厳と自立（自立・自律） 4人権と尊厳（ノーマライゼーション） 5人権と尊厳（利用者のプライバシー保護） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人長寿社会開発センター 第1巻 人間の尊厳と自立／社会の理解Ⅰ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。 | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|---------------|------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅰ （社会福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 5 | 時間数(単位数) 5 | 配当学年・時期 3年生5月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障がい者自立支援法について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を学習する。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 介護保険制度と障害者自立支援制度の創設の背景と目的、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について理解する。また、両制度が、高齢者や障がいのある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] | | | | | |
| コマ数 1介護保険制度創設の背景 2介護保険制度の基礎的理解(サービスの種類と内容) 3介護保険制度の基礎的理解(サービス利用までの流れ) 4介護保険制度の基礎的理解(サービス提供事業者・財政) 5介護保険制度における専門職の役割 | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人長寿社会開発センター 第1巻 人間の尊厳と自立／社会の理解Ⅰ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。 | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|----------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ （社会福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 30 | 時間数(単位数) 30 | 配当学年・時期 3年生5月～11月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] | | | | | |
| 1個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。 | | | | | |
| 2わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。 | | | | | |
| 3介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。 | | | | | |
| 4介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を習得する学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] | | | | | |
| 1個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、生活と福祉を捉えることができる。また、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにしておく必要がある。そして「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。 | | | | | |
| 2日本国憲法が規定する生存権の性格を理解し、それを具体的に実現しようとする公的扶助等について学習する。また、病気やケガをしても安心して医療サービスを受けることのできる医療保険制度、加齢等により介護が必要になったときのための介護保険制度など、現在の主な <u>社会保障制度</u> の状況を、社会保障全体の関連を整理しながら理解することにより、社会保障制度がすべての国民の暮らしにとって必須であることを学習する。 | | | | | |
| 3介護保険制度と <u>障害者自立支援制度</u> の創設の背景と目的、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について理解する。また、両制度が、高齢者や障がいのある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。 | | | | | |
| 4個人情報保護、情報公開制度、第三者評価と成年後見制度、高齢者虐待防止法、日常生活自立支援事業に加えて、訪問販売などの不当な契約に対するクーリングオフ制度などの消費者保護関連の制度等、 <u>介護実践に関する制度</u> を理解する。また、人の権利を守るもの、中でも日常的な生活に密接 | | | | | |

に関わる施策が、自立生活を支援するために必要な社会的な制度であることについても理解する。さらに、医療保険制度や生活習慣病予防等の健康づくり施策、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な法規、介護を実践していく上で必要な基礎知識を学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。

社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する。

介護保険制度と障害者自立支援制度の基礎的知識を習得する。

個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1生活と福祉（家族の概念、変容、構造や形態、機能、役割、家族観の多様化）

2生活と福祉（家族の概念、変容、構造や形態、機能、役割、家族観の多様化）

3生活と福祉（地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織）

4生活と福祉（地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織）

5～6生活と福祉（社会・組織の概念、機能、役割、グループ支援、組織化、エンパワメント）

7～8社会保障制度（社会保障の概念と範囲、役割と意義、理念）

9～10社会保障制度（日本の社会保障制度の基本的な考え方、憲法との関係、戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備）

11～12社会保障制度（国民皆保険、国民皆年金、社会福祉法、福祉六法）

13～14社会保障制度（社会保障費用の適正化・効率化、地方分権、地域福祉の充実、社会保障構造改革）

15～16社会保障制度（社会保障の財源、社会保険、社会扶助、公的保険制度、民間保険制度）

17～18社会保障制度（人口動態の変化、少子高齢化、社会保障の給付と負担、持続可能な社会保障制度）

19～20障がい福祉（障がい福祉の展開）

21～22障がい福祉（障害者総合支援法）

23～24障がい福祉（経済的支援）

25～26介護実践に関する制度（個人情報保護制度、活用）

27～28介護実践に関する制度（成年後見制度）

29介護実践に関する制度（日常生活自立支援事業）

30介護実践に関する制度（地域における保健医療福祉サービスの提供体制）

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人長寿社会開発センター
第1巻

人間の尊厳と自立／社会の理解Ⅰ・Ⅱ

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|-----------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ （介護福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 10 | 時間数(単位数) 10 | 配当学年・時期 2年生10月～11月 | | 必修 | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士制度の中の介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規、業務範囲を理解する。また、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解を深める。とりわけ、<u>介護実践は介護を必要とする人の尊厳保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u>を学ぶことが必要であり、<u>尊厳を守る介護、自立に向けた介護</u>について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のにおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から<u>介護福祉士の倫理</u>に基づく実践の在り方を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解する。 ・個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。 ・介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守する。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1介護福祉士の制度 2介護福祉士の役割と機能 3介護人材の在り方と介護福祉士のキャリアパス 4～5尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開（ICF） 6～7尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開（リハビリテーション） 8介護福祉士の倫理 | | | | | |

9～10身体拘束の禁止と虐待防止

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター
第2巻 介護の基本 I・II

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|-------------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ （介護福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 2年生12月～3年生4月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、 <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。また、チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、 <u>介護実践における連携</u> に関する知識をさらにケアマネジメントや職業倫理、 <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> 、そして介護従事者の健康管理など <u>介護福祉士の安全</u> について学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のにおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 介護を必要とする高齢者や障がい者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ・ チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ・ リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ・ 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] | | | | | |
| コマ数 1介護を必要とする人の生活の理解 2介護を必要とする障がいのある人の生活理解 3介護を必要とする高齢者・障がいのある人の支援の課題 4介護実践における連携（チームアプローチ） 5～6介護実践における連携（チームアプローチにおける他の職種の機能と役割） | | | | | |

- 7介護実践における連携（チームアプローチにおける多職種連携）
- 8介護実践における連携（チームアプローチにおける関係機関の役割）
- 9介護実践における連携（チームアプローチにおける関係機関との連携）
- 10介護における安全の確保とリスクマネジメント（介護リスク・生活上のリスク）
- 11介護における安全の確保とリスクマネジメント（安全管理）
- 12～13介護における安全の確保とリスクマネジメント（介護事故、要因、実態）
- 15介護における安全の確保とリスクマネジメント（介護事故予防、マニュアル）
- 16～17介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染症の種類、感染経路、治療）
- 18介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染症の予防）
- 19介護従事者の安全（健康管理）
- 20介護従事者の安全（労働安全対策）

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター
第2巻 介護の基本Ⅰ・Ⅱ

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
出席と試験により評価する。60点以上を合格とする。

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|-----------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術 （コミュニケーション技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 2年生10月～12月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 介護場面において適切な支援を行うためには、 <u>介護におけるコミュニケーション技術</u> が必要である。 <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> を通して、援助関係を構築し、ニーズを引き出す知識、技術を理解する。他の専門職とのそのため、コミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を目指す。また、 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> のあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護におけるコミュニケーションの意義と目的について理解する。 利用者・家族とのコミュニケーションの方法について理解する。 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法について理解する。 記録による情報の共有化の意義と目的について理解する。 会議の意義と目的について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1利用者・家族とのコミュニケーション（話を聴く技法） 2利用者・家族とのコミュニケーション（利用者の感情表現を察する技法気づき、洞察力、その他） 3利用者・家族とのコミュニケーション（意欲を引き出す技法） 4利用者・家族とのコミュニケーション（利用者本人と家族の意向の調整を図る技法） 5利用者・家族とのコミュニケーション（相談援助技術） 6利用者の機能に応じたコミュニケーション（高齢者とのコミュニケーション） 7利用者の機能に応じたコミュニケーション（運動機能の低下した利用者とのコミュニケーション） 8利用者の機能に応じたコミュニケーション（言語障がいをもつ利用者とのコミュニケーション） | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>9利用者の機能に応じたコミュニケーション（視覚障がいをもつ利用者とのコミュニケーション）</p> <p>10利用者の機能に応じたコミュニケーション（コミュニケーション障がいをもつ利用者とのコミュニケーション）</p> <p>11利用者の機能に応じたコミュニケーション（高次脳機能障がいとのコミュニケーション）</p> <p>12利用者の機能に応じたコミュニケーション（認知機能の低下した利用者とのコミュニケーション）</p> <p>13利用者の機能に応じたコミュニケーション（利用者の状態に応じたコミュニケーション）</p> <p>14介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（チームマネジメント）</p> <p>15介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（チームにおけるコミュニケーション）</p> <p>16介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（介護における記録の意義、目的、種類）</p> <p>17介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（記録の方法、留意点）</p> <p>18介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（情報通信技術を活用した記録の意義、活用の留意点、個人情報保護）</p> <p>19介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション（会議の意義、目的、種類、会議の方法、留意点、その他）</p> <p>20まとめ</p> | |
| <p>[仕様テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター</p> <p>第3巻 コミュニケーション技術</p> | <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> |

【別紙8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|----------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ （生活支援技術） | | 授業の種類 講義・演習 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 2年生10月12月 | | 必修 | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助（移動・移乗介護、食事介護、入浴・清潔保持、排せつ介護、衣服着脱介護、整容介護、口腔ケア、家事援助）、環境整備を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援とICFの意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスの活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を修得している。 ・居住環境整備、福祉用具の活用等の視点により、利用者の環境を整備する支店・留意点を理解している。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1生活支援とICF（ICFの構造図の理解） 2生活支援とICF（ICFの視点に基づくアセスメント） 3ボディメカニクスによる介護（ボディメカニクスの活用） 4ボディメカニクスによる介護（ボディメカニクスの実践） 5～6生活支援技術の基本と福祉用具の活用（移動・移乗介護） 7～8生活支援技術の基本と福祉用具の活用（食事介護） 9～10生活支援技術の基本と福祉用具の活用（入浴・清潔保持） 11～12生活支援技術の基本と福祉用具の活用（排せつ介護） 13～14生活支援技術の基本と福祉用具の活用（衣服着脱介護） 15～16生活支援技術の基本と福祉用具の活用（整容介護） 17生活支援技術の基本と福祉用具の活用（口腔ケア） | | | | | |

18生活支援技術の基本と福祉用具の活用（家事援助）

19環境整備（居住環境）

20環境整備（居住環境と福祉用具）

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター
第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|------------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ （生活支援技術） | | 授業の種類 講義・演習 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 30 | 時間数(単位数) 30 | 配当学年・時期 2年生1月～3年生6月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向け、利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護）、環境整備を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・自立に向けた介護（移動・移乗介護、食事介護、入浴・清潔保持、排せつ介護、衣服着脱介護、整容介護、口腔ケア、家事援助）の意義と目的について理解する。 ・安全で的確な介護（移動・移乗介護、食事介護、入浴・清潔保持、排せつ介護、衣服着脱介護、整容介護、口腔ケア、家事援助）の技法について理解する。 ・利用者の状況に応じた介護（移動・移乗介護、食事介護、入浴・清潔保持、排せつ介護、衣服着脱介護、整容介護、口腔ケア、家事援助）の留意点について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1心身の状態に合わせた生活支援技術 2心身の状態に合わせた介護技術の提供 3心身の状態に合わせた移動の介護 4心身の状態に合わせた移乗の介護 5～6心身の状態に合わせた食事の介護 7～8心身の状態に合わせた入浴・清潔保持の介護 9～10心身の状態に合わせた入浴・清潔保持の介護 11～13心身の状態にあわせた排泄の介護 14～15心身の状態に合わせた着脱の介護 16～17心身の状態に合わせた整容の介護 18～20心身の除隊に合わせた口腔ケア | | | | | |

21～24心身の状態に合わせた休息・睡眠の介護

25～27人生の最終段階における介護

28～30福祉用具等の活用

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター
第4巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|---------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ （生活支援技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 3年生6月～7月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] <u>介護過程の基礎的知識</u> を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして <u>介護過程の展開方法</u> を理解する必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、利用者の生活をよりよくするために <u>介護過程とチームアプローチ</u> を理解する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護過程の意義と目的について理解する。 介護過程の展開について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～ 3介護過程の基礎知識（介護過程の意義、目的・目標） 4～ 6介護過程の展開（介護過程のサイクル） 7～ 8介護過程の展開（介護過程の手順 アセスメント） 9～11介護過程の展開（介護過程の手順 利用者のニーズ） 12～14介護過程の展開（介護過程の手順 介護計画の立案） 15～17介護過程の展開（介護過程の手順 介護計画の実施） 18～19介護過程とチームアプローチ（介護過程におけるチームの職種と役割） 20介護過程とチームアプローチ（介護食の観察、記録、情報伝達） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第4巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|----------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ （生活支援技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 25 | 時間数(単位数) 25 | 配当学年・時期 3年生7月～11月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護過程の展開の <u>実際</u> を学習し、情報収集、アセスメント、介護計画の立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行う力を養う。また、 <u>利用者の状態（障がい、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）</u> について <u>事例を設定し、介護過程を展開する方法を学ぶ</u> 。さらに <u>観察ポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等</u> についても考察する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 自立に向けた介護過程の展開について理解する。 利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1介護過程の展開の実際（事例の概要） 2～4介護過程の展開の実際（情報の収集 アセスメントの情報源） 5～ 6介護過程の展開の実際（情報収集） 7～10介護過程の展開の実際（ICFの視点に基づいた情報の収集） 11～14介護過程の展開の実際（アセスメント） 15～18介護過程の展開の実際（介護計画の立案） 19～23介護過程の展開の実際（実施 個別サービス計画の実施） 24～25介護過程の展開の実際（モニタリング）評価・計画の見直し） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第4巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|-----------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） ころとからだのしくみⅠ （ころとからだの理解） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 2年生10月～12月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 介護に関係した身体の仕組みの基礎的に理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、ころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、 <u>移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等</u> について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ころのしくみに関する諸理論について理解する。 身じたくに関連したからだのしくみについて理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～ 4介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（移動・移乗） 5～ 7介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（食事） 8～10介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（入浴・清拭保持） 11～13介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（排せつ） 14～15介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（衣服の着脱） 16～17介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（整容） 18～19介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解（口腔ケア） 20まとめ | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第6巻 ころとからだのしくみⅠ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|------------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ （こころとからだの理解） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 60 | 時間数(単位数) 60 | 配当学年・時期 2年生1月～3年生8月 | | 必修 | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の心理、人体の構造と機能、身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点をより質の高いサービスができるよう学ぶ。そのために、心理、認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。 食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> | | | | | |
| <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1～ 4人間の心理（人間の欲求）</p> <p>5～ 8人間の心理（人間の学習と記憶）</p> <p>9～10人体の構造と機能（生命の維持・恒常）</p> <p>11～14人体の構造と機能（からだのしくみ）</p> <p>15～18人体構造と機能（こころとからだの相互関係）</p> <p>19～21人体構造と機能（ボディメカニクスの原則）</p> <p>22～26身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（移動・移乗）</p> <p>27～31身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（食事）</p> <p>32～37身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（入浴・清潔保持）</p> <p>38～42身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（排せつ）</p> <p>43～46身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（着脱）</p> | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>47～50身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（整容）</p> <p>51～54身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（口腔ケア）</p> <p>55～57身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（休息・睡眠）</p> <p>58～59身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント・連携等の留意点（人生の最終段階におけるケア）</p> <p>60まとめ</p> | |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 第6巻 ころとからだのしくみⅠ・Ⅱ</p> | <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|------------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ （コミュニケーション技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 10 | 時間数(単位数) 10 | 配当学年・時期 2年生1月～3年生4月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解し、 <u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u> についての理解を深める。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解する。 ・老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～2老化に伴うこころの変化（こころの変化） 3老化に伴うこころの変化（高齢者の精神的特徴と病気） 4～5老化に伴う身体の変化（加齢と老化） 6老化に伴う身体の変化（人の身体の成り立ち） 7～10老化に伴う身体の変化（身体機能の変化と日常生活への影響） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第7巻 発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ 認知症の理解Ⅰ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|------------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ （コミュニケーション技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 3年生4月～3年生7月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 人間が生まれてから高齢になるまでの人間の成長・発達を理解する高齢期の発達課題、心理的な課題等、 <u>高齢期の発達・成熟と心理</u> について理解し、支援の留意点を学ぶ。また、高齢者に多い症状・疾病等と留意点について理解する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。 ・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障がい、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解する。 ・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] | | | | | |
| コマ数 | | | | | |
| 1～ 4人間の成長・発達（発達の定義） | | | | | |
| 5人間の成長・発達（発達課題） | | | | | |
| 6～ 7高齢期の発達課題、心理的な課題（高齢期の発達課題） | | | | | |
| 8～ 9高齢期の発達課題、心理的な課題（高齢期の発達を阻害する要因） | | | | | |
| 10～11高齢期の発達課題、心理的な課題（高齢期と適応） | | | | | |
| 12高齢期の発達課題、心理的な課題（主な症状とチェックポイント） | | | | | |
| 13高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 目、耳、鼻） | | | | | |
| 14高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 皮膚の病気、歯、口腔、顎） | | | | | |
| 15高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 感染、循環器、血液） | | | | | |
| 16高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 腎臓・泌尿器の病気、精神の病気） | | | | | |
| 17高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 精神・運動器の病気） | | | | | |
| 18高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 脳神経・アレルギーの病気） | | | | | |
| 19高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 生活習慣病） | | | | | |

20高齢期の発達課題、心理的な課題（疾病の理解と支援の留意点 介護保険の特定疾病）

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター
第7巻 発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ
認知症の理解Ⅰ・Ⅱ

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|----------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ （コミュニケーション技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 10 | 時間数(単位数) 10 | 配当学年・時期 3年生7月～10月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 認知症ケアの理念や歴史を学ぶとともに、 <u>認知症による生活障がい、心理・行動の特徴等</u> について学ぶ。また、医学的側面からみた認知症を学ぶ。また、家族への支援や、地域との連携、多職種協働に、 <u>認知症サポーター、地域ボランティア等による認知症の人とのかかわり・支援の基本</u> について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・ 認知症のケアの歴史や理念を理解する。 ・ 医学的側面から見た認知症について理解する。 ・ 認知症の人の特徴的な心理・行動について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～2認知症ケアの理念（認知症の定義と診断基準） 3認知症ケアの理念（認知症ケアの歴史） 4認知症ケアの理念（認知症ケアの理念：パーソン・センタード・ケア） 5認知症ケアの理念（認知症の人の尊厳と自立・自律） 6認知症ケアの理念（チームアプローチ 多職種協同） 7認知症による生活上の障がい（認知症による生活の困難） 8認知症による生活上の障がい（中核症状） 9認知症による生活上の障がい（生活障がい） 10認知症による生活上の障がい（行動・心理症状） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第7巻 発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ 認知症の理解Ⅰ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|----------------------|--|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ （コミュニケーション技術） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 3年生10月～1月 | | 必修 | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症のケアの歴史や理念を学ぶとともに、若年性認知症を含む代表的な認知症の原因疾患、症状、障がい、認知症に進行による変化や検査や治療等について学ぶ。また、<u>医学的側面からみた認知症の理解</u>を深める。また、<u>認知症の人や家族への支援の実際</u>や、<u>地域との連携</u>、<u>多職種協働</u>に、<u>認知症サポーター</u>、<u>地域ボランティア</u>等よるケアの方法について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響について理解する。 地域におけるサポート体制について理解する。 家族への支援の方法について理解する。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1医学的側面から見た認知症の理解（認知症の病態） 2医学的側面から見た認知症の理解（認知症の診断） 3医学的側面から見た認知症の理解（認知症の原因とケア） 4医学的側面から見た認知症の理解（健康管理） 5医学的側面から見た認知症の理解（認知症の薬物療法） 6医学的側面から見た認知症の理解（認知症の日薬物療法） 7医学的側面から見た認知症の理解（ステージアプローチ） 8認知症の人への支援の実際（認知症ケアの基本） 9認知症の人への支援の実際（認知症ケアの基本） 10～14認知症の人への支援の実際（認知症障がいのアセスメントと自立・自律支援） 15認知症ケアの地域サポート体制（地域包括ケアと認知症ケア） 16認知症ケアの地域サポート体制（地域包括ケアと認知症ケア） 17～18認知症ケアの地域サポート体制（新オレンジプラン） 19～20認知症ケアの地域サポート体制（認知症ケアの地域サポート） | | | | | |

| | |
|--|---|
| <p>[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第7巻 発達と老化の理解 I・II 認知症の理解 I・II</p> | <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> |
|--|---|

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|---------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 障害の理解 I （介護福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 10 | 時間数(単位数) 10 | 配当学年・時期 3年生5月～6月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 障がいの概念の変遷や障がい者福祉の歴史を踏まえ、 <u>障がい者福祉の理念</u> を理解する。また、 <u>障がいによる生活障がい、心理・行動の特徴</u> を理解し、 <u>障がい児者や家族へのかかわり・支援の基本</u> を学ぶ。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] 障がいの概念について理解する。 障がいの医学的側面について理解する。 障がいのある人の心理について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] | | | | | |
| コマ数 1障がい者福祉の理念（障がい者福祉の理念） 2障がい者福祉の理念（障がい概念の返還、障がい者福祉の歴史） 3障がいの特徴と生活上の障がい（障がい者・児とは） 4～6障がいの特徴と生活上の障がい（身体障がいの特徴と生活上の障がい） 7障がいの特徴と生活上の障がい（高次機能障、発達障がいの特徴と生活上の障がい） 8障がいの特徴と生活上の障がい（強度行動障がい） 9障がいの特徴と生活上の障がい（難病の特徴と生活上の障がい） 10障がいのある人や家族へのかかわり・支援の基本 | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第8巻 障害の理解 I・II | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|---|----------------|----------------------|-----------------------------------|-------------------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ （介護福祉基礎） | | 授業の種類 講義 | | 授業担当者 横井 晴香 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 20 | 時間数(単位数) 20 | 配当学年・時期 3年生6月～10月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 障がいを持っている人と持っていない人の違いを理解するとともに、障がいの捉え方や、ICF、様々な障がいの種類と原因、特性について学ぶとともに、障がいのある人の心理面や <u>医学的側面からみた障がいの理解</u> をする。また、地域の連携や、障がい者の家族、多職種との協働等、 <u>障がい児者への支援の実際</u> について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 障がいの医学的側面について理解する。 地域や、多職種との連携について理解する。 家族への支援の方法について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～ 6医学的側面から見た障がいの理解（身体障がいの原因・種類） 7～ 8医学的側面から見た障がいの理解（高次脳機能障がいの原因・種類） 9～10医学的側面から見た障がいの理解（発達障がいの原因・種類） 11～12障がいの特性に応じた支援の実際（障がいのある人のアセスメントと支援） 13～14障がいの特性に応じた支援の実際（相談支援） 15～17障がいの特性に応じた支援の実際（障がいの特性に応じた支援） 18障がい者の地域のサポート体制（地域における障がい者サポート体制） 19～20障がい者の地域のサポート体制（障がい者支援のための地域連携） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第8巻 障害の理解Ⅰ・Ⅱ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

【別紙8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|---------------------|--|-----------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 医療的ケア 喀痰吸引及び経管栄養演習 （こころとからだの理解） | | 授業の種類 講義 ・ 演習 | | 授業担当者 伊藤 みね子 | |
| 授業の回数 50 | 時間数(単位数) 50 | 配当学年・時期 3年生9月～1月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 医療的ケア実施の基礎知識を理解する。また、 <u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 、 <u>経管栄養（基礎的知識、実施手順）</u> を理解し、 <u>演習</u> を通して安全・適切に実施する技術を習得する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] 安全・適切に喀痰吸引の実施ができる 安全・適切に経管栄養の実施ができる | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 | | | | | |
| 1人間と社会（介護職と医療的ケア） 2人間と社会（介護福祉士等が喀痰吸引等を行うことに係る制度） 3保健医療制度とチーム医療（保健医療に関する制度） 4保健医療制度とチーム医療（医療的行為に関する法律・チーム医療と介護職員との連携） 5安全な療養生活（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施） 6～ 8安全な療養生活（救急蘇生法） 9清潔保持と感染予防（感染予防） 10清潔保持と感染予防（療養環境の清潔） 11清潔保持と感染予防（洗浄・消毒・滅菌） 12清潔保持と感染予防（介護職員の感染予防） 13健康状態の把握（身体と精神の健康） 14健康状態の把握（健康状態を知る項目） 15健康状態の把握（急変状態について） 16高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（呼吸のしくみとはたらき） 17高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（いつもと違う呼吸状態） 18高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（喀痰吸引とは） 19高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（人口呼吸と吸引） 20高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（子どもの吸引について） 21～22高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（吸引利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意） 23高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」（呼吸器系の感染と予防） | | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>24～25高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 (喀痰吸引に生じる危険と事後の安全確認)</p> <p>26高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 (急変・事故発生時の対応と事前対策)</p> <p>27高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 実施手順 (喀痰吸引の器具・機材とそのしくみ、清潔の保持)</p> <p>28～30高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 実施手順 (吸引の技術と留意点)</p> <p>31～32高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 実施手順 (喀痰吸引に伴うケア)</p> <p>33～34高齢者および障がい児・者の「喀痰吸引」 実施手順 (報告及び記録)</p> <p>35高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (消化器系のしくみとはたらき)</p> <p>36高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (消化・吸収と、よくある消化器の症状)</p> <p>37高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (経管栄養法とは)</p> <p>38高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (注入に関する知識)</p> <p>39高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (経管栄養実施上の留意点)</p> <p>40高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (子どもの経管栄養について)</p> <p>41高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (経管栄養に関する感染と予防)</p> <p>42高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (経管栄養利用と家族への説明と同意)</p> <p>43高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (経管栄養で生じる危険、注入後の安全確認)</p> <p>44高齢者および障がい児・者の「経管栄養」 (急変・事故発生時の対応と事前対策)</p> <p>45高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」 実施手順 (経管栄養器具・機材のしくみと清潔保持)</p> <p>46～49高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」 実施手順 (経管栄養技術と留意点)</p> <p>50～51高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」 実施手順 (経管栄養に必要なケア)</p> <p>52高齢者及び障がい児・者の「経管栄養」 実施手順 (報告および記録)</p> | |
| <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター</p> <p>第9巻 医療的ケア</p> | <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> |

【別紙 8】

授 業 概 要

| | | | | | |
|--|----------------|----------------------|-----------------------------------|----------------|--|
| 授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ （生活支援技術） | | 授業の種類 講義・演習 | | 授業担当者 馬場 貴一 | |
| 授業の回数 45 | 時間数(単位数) 45 | 配当学年・時期 3年生4月～12月 | | 必修 | |
| [授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 | | | | | |
| [授業全体の内容の概要] 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価し、介護過程の展開の実際を学ぶ。また、介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力評価を学び、介護技術の評価方法を理解する。 | | | | | |
| [授業修了時の達成課題（到達目標）] ケースカンファレンスやサービス担当者会議の意義と目的について理解する。 他の職種との連携の方法について理解する。 | | | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] | | | | | |
| コマ数 1介護過程の展開の実践（ガイダンス） 2～ 11介護過程の展開の実践（介護過程の展開と介護技術の実践） 12～ 43介護過程の展開の実践（介護過程の展開と介護技術の実践） 44介護技術の評価（介護福祉士の実技試験） 45介護技術の評価（介護キャリア段位制度） | | | | | |
| [使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 第4巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | | | [単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） | | |

